



公益財団法人日本ユニセフ協会協定地域組織
 佐賀県ユニセフ協会通信(No. 102)uniwish29号(2019年1月)
 佐賀県佐賀市水ヶ江四丁目2番2号
 (電話・FAX) 0952-28-2077
 (業務時間) 月・火・木・金 10:00~15:00
 E-mail unicef-saga@ams.odn.ne.jp
 ホームページ <http://www.saga-unicef.jp/>
 facebook <http://www.facebook.com/unicef>



あけましておめでとうございます
新しい年 世界中の子どもたちが笑顔でいられる一年になりますように
ユニセフ「Every Child Alive」キャンペーン
すべての子どもの命を守る決意を



© UNICEF/UN062341/Zammit

【2019年1月1日 ニューヨーク発】

ユニセフの推計によると、2019年の元旦に生まれる赤ちゃんは、世界で推計39万5千人。日本でも、推定2,769人の新たな命が誕生します。

すべての子どもが、安全な環境で生まれ、すくすくと成長し、自らのもつ可能性を最大限に発揮できる・・・そんな世界を目指して、ユニセフは世界190の国と地域で、子どもたちのための活動をしています。

今年もユニセフの活動へのあたたかいご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。

(※ 推定出生数および平均余命は、『国際連合世界人口予測(2017年)』の指標をもとに、World Data Lab (WDL) による計算方法を用いて算出。)

また2019年は「子どもの権利条約」の採択30周年を迎えます。

この条約は、子どもの基本的人権を国際的に保障するために定められた条約です。18歳未満の子どもを、権利をもつ主体と位置づけ、おとなと同様ひとりの人間としての人権を認めるとともに、成長の過程で特別な保護や配慮が必要な子どもならではの権利も定めています。

ユニセフは一年を通して、これを記念した世界的なイベントを展開していきます。子どもの権利条約のもと、各国政府は何よりもまず、すべての子どもに質の高い保健ケアを提供しその命を守っていくことを約束しています。

30年以上にわたって、世界は子どもの生存に関して素晴らしい前進を遂げました。5歳の誕生日を迎えることなく亡くなる子どもの数を半数以下に削減したのです。しかし、新生児に関する進歩は遅く、5歳未満児の死亡数の47%を新生児が占めています。

ユニセフの「Every Child Alive」キャンペーンは、すべての赤ちゃんとも母親に質の高い保健ケアを手の届く価格で提供するための緊急の投資を呼びかけています。これには、保健施設に安全な水や電力を安定供給することや習熟した保健員がお産に立ち会うこと、妊娠時から出産までを通して合併症を防ぎ治療するための医薬品や備品を十分に供給すること、そしてより質の高い保健サービスを求められるよう女の子や女性を後押しすることも含まれています。皆様のお力添えをどうぞよろしくお願いいたします。

【資料提供：日本ユニセフ協会】

佐賀県ユニセフ協会創立25周年！！

佐賀県ユニセフ協会は、1994年10月31日に「財団法人日本ユニセフ協会佐賀友の会」として創立以来、2019年に25周年を迎えます。この間、皆様方の温かいご支援を賜りながら佐賀県を中心に長崎県・福岡県においてユニセフの広報活動・募金活動・ユニセフプロダクツの頒布(2015年に終了)などに取り組んでまいりました。

これまでのご支援への感謝とこれからの更なる発展を期して25周年記念事業を開催する予定です。詳細につきましては次号でご案内申し上げます。どうぞお楽しみにお待ちしております。



○ 9月4日 (火) アステラス製薬会社 九州支店 佐賀営業所 (企業での出前講座)



テーマ：見つけよう！ 私にできるボランティア！

* 佐賀営業所様には日頃から様々なボランティアに取り組んでおられます。今回、社員研修として『ユニセフの出前講座』をさせていただきました。
〈アステラス製薬会社 佐賀営業所〉



○ 9月11日 (火)、10月11日 (木) 12月11日 (火) イオン「**幸せの黄色いレシートキャンペーン**」参加
〈佐賀市：イオン佐賀大和店〉

○ 9月15日 (土) 日本ユニセフ協会協定地域組織九州地区交流会 〈佐賀新聞社〉
日本ユニセフ協会から2名、JICAから1名、九州地区5県から28名参加
研修①「ブルキナファソに行ってきました」
研修②「JICA国際協力隊員として赴いたアフリカの子ども達の現状」
研修③「各地域組織に学ぶ」
指導・助言：日本ユニセフ協会より



○ 9月26日 (水) ユニセフ出前授業 ドリームパーク千代田中部小学校 ほし組
「水から世界を考えよう～水のろ過実験～」 〈神崎市立千代田中部小学校〉

○ 9月20日 (木) 「SDG s 絵画展」 審査会 〈佐賀市立図書館〉
応募作品：148点 審査員：井上信宏先生、森和幸先生

○ 9月22日 (土) トヨタ紡織九州レッドトルネード 募金活動
第43回 日本ハンドボールリーグ佐賀大会にて 〈芦刈文化体育館〉



○ 10月1日 (月) ～6日 (土) 2018さが国際フェスタ (ユニセフパネル展)
『アグネス大使 ～アジア周辺国訪問～』
〈佐賀市商工会館1Fロビーギャラリー〉

○ 10月8日 (月)、13日 (土)、14日 (日) トヨタ紡織九州レッドトルネード 募金活動
〈芦刈文化体育館〉 〈神埼中央公園体育館〉



○ 10月13日 (土) 2018さが国際フェスタ in 唐津 〈唐津市：市役所前広場〉
「シリアの小さな声～世界に逃れたシリアの子どもたち～」パネル展示
「SDG s ってなあに？」広報

○ 10月14日 (日) ばぶばぶフェスタ2018 『世界手洗いの日』キャンペーン
ユニセフワークショップで参加 〈佐賀市：アバンセ〉
※ティッピータップ体験 (簡易手洗い)
※紙芝居「ばいきんバイバイ」 ※手洗いダンス



○ 10月20日 (土) 2018さが国際フェスタ “玄海インターナショナルDAY”
『いのちのはじまり』DVD映写「ユニセフってなあに」パネル展示
「ユニセフワークショップ」 〈玄海次世代エネルギーパーク あすぴあ〉

○ 10月21日 (日) ～27日 (土) 第2回 SDG s 絵で伝えよう「私たちの地球」を守る絵画展 **【詳細はP4に掲載】**
21日 (日) 表彰式、SDG s ミニ研修
21日 (日) ～27日 (土) 入賞作品の展示 〈佐賀県庁 県民ホール〉

○ 11月18日 (日) 「2018 ユニセフのつどい」
ビデオジャーナリスト 玉本英子さん 講演会 〈佐賀市立図書館〉 **【詳細はP5に掲載】**
演題：紛争地域取材して20年 ～イラクの女性・子どもたちを見つめて～

○ 12月6日 (木) 佐賀市立北川副小学校 ユニセフ出前授業 「人権集会」にて 全校児童 約600名
「世界のともだちと未来をつくる」

○ 12月17日 (月) 佐世保市立鹿町小学校 募金贈呈及びユニセフ出前授業 5年生 15名
(1) 「総合的な学習の時間」に育てた稲の収穫・販売の利益の一部を募金
(2) 「ユニセフと世界のともだち」「募金の使われ方」について出前授業



○ 12月1日（土）、9日（日）、16日（日）、23日（日）、25日（火）
第40回 ユニセフ ハンドインハンド 街頭募金活動

【詳細はP6～P7に掲載】

○ 1月17日（木） おへそこども園 募金贈呈及びユニセフ出前授業 年長児 19名
(1) 国際理解の一環で行われている「せかいのともだちと水」の活動で取り組んだ募金贈呈
(2) 「せかいのともだちと水」と「ティッピータップ体験」の出前授業



ご支援 ありがとうございます

佐賀リハビリテーション病院様 アステラス製薬(株)九州支店佐賀営業所様 報恩寺様 母子草様 ドゥース様
トヨタ紡織九州レッドトルネード様 佐賀市文化会館様 アルタ高木瀬店様 TSUTAYA鍋島店様 東洋館様
恵比寿鍼灸整骨院様 団野法律事務所様 アルタ開成店様 えんぴつ館様 New・モア様 サンシャレー様
グランデはがくれ様 ホテルニューオータニ佐賀様 佐賀シール工業様 ぎょうざ屋様 三瀬そば様
ふくしま薬局通小路店様 西国御領風羅坊様 栗原内科消化器科医院様 菖蒲ご膳様 ANA FESTA様
佐賀空港壱番館様 レストランカンフォーラ様 (株)北島様 多布施クリニック様 旅館あけぼの様
モンテカルロ太陽本庄店&医大通り店様 ようどう館佐賀校様 ようどう館大和校様 川崎自工様
手打ちそばうどん夢心様 ガイルス・ライブハウス様 H&M Fido EXCEL様 村岡屋駅南店様 いっせい麺処様
村岡屋卸本町店様 山小屋ラーメン南佐賀店様 佐賀ギター音楽院様 最所法律事務所様
れすとらん志乃県庁店様 H&M EXCEL W.E.N.S様 国府団地資源物回収協力会様 矢山クリニック様
佐賀市役所川副支所民生児童委員協議会様 佐賀清和中学校様 鹿町小学校5年生様 長松小学校様
浄土真宗本願寺派佐賀教区少年連盟ウインタースクール様 コープさが生活協同組合様

(株)アレポの石鱈様 佐賀市役所高齢福祉課長寿推進係様 佐賀市民活動プラザ様 佐賀共栄銀行秘書課様
佐賀県南部地区郵便局長会様 佐賀市役所市民生活課様 (株)シマブン様 佐賀玉屋物流係様
コープさが新栄店様 ヘルスランチあららぎ様 佐賀銀行様 ポリテクセンター様 佐賀県民協働課様
佐賀新聞社販売店様 佐賀大学医学部基礎研究棟様 西与賀公民館様 大塚製薬佐賀工場様 副島病院様
すぎの子文庫様 ニチレキ(株)様 富安造園様 JAS中核会様 (有)蓮池衛研工業様 田中電子工業様
第一生命様 循誘公民館様

イオンスーパーセンター佐賀店様 スーパービバホーム佐賀店 ゆめタウン佐賀店様 佐賀玉屋様
イオンモール佐賀大和店様 ホームワイド佐賀大和店様 イオン上峰ショッピングセンター様
コープさが新栄店様 ゆめマートさが様 Aコープララベル鹿島店様 フレスポ鳥栖店様

矢ヶ部小学校様 柳川市教育委員会様 上峰小学校様 佐賀商業高等学校様 北稜高等学校様
佐賀清和高等学校様 佐賀西高等学校様 三養基高等学校様 佐賀北高等学校様 致遠館高等学校様
弘学館高等学校様 佐賀女子高等学校様 材木町子ども会様 浄土真宗本願寺派佐賀教区少年連盟様
ボーイスカウト鹿島第1団様 ボーイスカウト佐賀第5団様

(順不同：2018年8月16日～2019年1月8日)

※ いろいろな形でのご支援ご協力に心から感謝申し上げます。
個人の皆さま方からもたくさんのご支援ご協力をいただいておりますが、この欄での
ご紹介は学校・企業・団体様等のみにさせていただきます。



賛助会員募集中！ 日本ユニセフ協会賛助会員としてご協力ください。

(公益財団法人日本ユニセフ協会の賛助会費は、ユニセフ募金や寄付金と同様、寄付金控除の対象になります。)

日本ユニセフ協会賛助会員とは

賛助会員の種類と期間

日本国内での募金活動、広報およびアドボカシー（政策提言）活動を担う日本ユニセフ協会を、賛助会費によって支援していただく協力方法です。賛助会員になってニュースレターや資料を入手して理解を深め、世界の子どもの状況やユニセフと日本ユニセフ協会の活動を知り、できる範囲で行動する機会にさせていただくことができます。

1. 一般賛助会員 1口 5,000円…個人の方が対象
2. 学生賛助会員 1口 2,000円…学生の方が対象
3. 団体賛助会員 1口100,000円…企業、団体、有志のグループなどが対象 期間は、1年ごとの更新。

✿詳細については、佐賀県ユニセフ協会までお問い合わせください。



持続可能な開発目標 (SDGs)と絵画展

第2回 SDGs 絵でつたえよう!
『わたしたちの地球』を守る絵画展

《表彰式及び絵の展示》

★表彰式 10月21日(日) 11:00~12:00

★作品の展示 10月21日(日)~10月27日(土)
10:00~16:00 (佐賀県庁 県民ホール)

2030年の地球を
ユニセフとともに
考えよう

「持続可能な開発目標」は、今ある世界のさまざまな問題を解決し「人間がずっと地球に住み続けられるように開発・発展するにはどうしたらよいだろう？」と世界のみんなで考えた17の目標です。2030年に社会の一線にいるのは今の子ども達です。佐賀県ユニセフ協会では、17の目標の中から、身近な生活の中で自分にできる事やみんなで取り組みたいこと考え、絵に表わすことを通して“『わたしたちの地球』を守ろう!”という気持ちを育てたいと考え、毎年この絵画展を開催しています。今年も佐賀県内小中学校から148点の応募がありました。

★ 表彰式(10/21)



【入賞者の表彰の様子】

★ SDGs研修



【SDGsについてのミニ研修様子】

★ 審査会(9/20)



【森先生、井上先生による審査の様子】

★ 特別賞入賞作品

1. 日本ユニセフ協会会長賞

【田代中学校1年 丹治朱莉さん】



地球には幸せがあふれており、きれいで個性的な生き物がたくさんいる。

2. 佐賀県ユニセフ協会会長賞

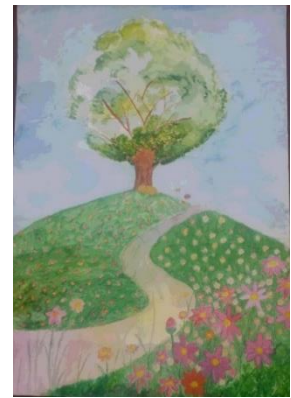
【五町田小学校1年 瀬頭にい奈さん】



水を出しっぱなしにするととってももったいない。

2. 佐賀県ユニセフ協会会長賞

【成穎中学校2年 井上葵子さん】



2. 佐賀県ユニセフ協会会長賞

【成穎中学校2年 植松花奈子さん】



地球に植物が増えるようにという願いを込めて、いろいろな国の人がいろいろな花を地球に描いているところを描きました。

★入賞作品の展示(10/21~10/27)



遠近法を使いました。花を一つ一つ塗るのが大変でした。虹色の道は自然を大切にしようという気持ちを込めて考えました。

★入賞者の集合写真



紛争地域取材して20年 ～イラクの女性・子どもたちを見つめて～

～映像最新報告～

今年の『ユニセフのつどい2018』では、“紛争地域に生きる女性や子どもたち”をテーマに、現在も、現場に出向いて取材を続けられている玉本英子さんを講師に迎えました。

講話ではイラクや中東の紛争地域の現状を自身が取材された最新の写真や映像を通して、そこで生活する女性や子どもたちの現状について話してもらいました。

◆《玉本英子さんの紹介》

1966年東京生まれ。デザイン事務所勤務を経て、1994年よりアジアプレス所属。イラク、トルコなど中東地域を中心に取材を続けている。2004年、ドキュメンタリー映画「ザルミーナ・公開処刑されたアフガニスタン女性を追って」を監督。共著に「アジアのビデオジャーナリストたち」。TV/新聞等での報道多数。第54回ギャラクシー賞報道活動部門優秀賞受賞。



講演をする
ビデオジャーナリスト
玉本英子さん



ヒジャーブの着用体験
をする参加者

◆《講演について》

～イラク・シリアの女性・子どもたちを見つめて～

吉原麻里さんが、佐賀新聞に投稿をしてくださいました。

イラクのヤズィディ教徒の人権活動家であるナディヤ・ムラドさんがノーベル平和賞を受賞したり、ジャーナリストの安田純平さんがシリアで拘束され解放・帰国したり...、イラク・シリアへの関心が高まっていた絶好のタイミングで、紛争地域を20年以上取材しているジャーナリストの玉本英子さんの話を聞くことができた。（11月18日に開催されたユニセフのつどい。佐賀市立図書館にて。）

ナディヤさんが報告した悲惨な経験は、同じ女性として恐怖に震えるものであったが、これは現在進行形で続いている可能性がある。ナディヤさんと同様の経験をした女性を、玉本さんは経時的に追跡取材した。最初は心身ともに傷ついていてカメラを向けることも憚られたが、親戚と合流した半年後には安堵の表情を、難民としてドイツに逃げた一年後には晴れやかな笑顔を見せていた。そして笑顔の陰で、トラウマを抱え、新しい環境への適応に苦労していた。

ジャーナリストが拘束される報道を目にすると「どうしてわざわざ危険な地に行くのだろう...」と引いていたが「実際に行かなければわからないことがある」。確かに、難民の複雑な苦悩は、既存の報道では理解できなかった。イスラム国（IS）の掃討作戦が功を奏したからと言って、人々の心の傷や、破壊された地が、そう簡単に癒えるはずはない。ISの戦闘員から、男は改宗か死の、女は結婚か死の、選択を迫られた。フリマアプリで売りさばくように、女奴隷はSNSで売買された。見せしめの虐殺に脅えた人々は、恐怖で声を上げられなかった。静かなる虐待である。私達は人々の本音を知る機会に乏しかったが、知らないから無いわけではないのだ。

中東が抱える問題は複雑でわかりにくい。つい知ること、理解することから逃げて、対岸の火事のような目で見てしまう自分がある。しかし、日本にいる私だって、永遠に平和が保証されているはずはなく、今後難民を受け入れたり、自分が難民になったりすることがあるかもしれない。当事者意識を持って、これからも自分なりに学ぼうと決意した。

(2018.11.21 (水) 佐賀新聞“オピニオンコーナー”掲載より引用)

◆《オープニング》

「オカリナの響き」花時計さんミニコンサート

初めに、オカリナサークル「花時計」の皆さんによるオープニングミニコンサート『オカリナの響き』を聴いていただきました。花時計の皆さんは、月に2回、諸富教室でオカリナ奏者shanaさんに指導を受け、音色の美しさは勿論、様々な曲にチャレンジし、演奏に磨きをかけておられます。“ビリーブ”など4曲を披露してくださいました。心とむひと時でした。



第40回 ハンドインハンド 募金活動

2018年のハンドインハンド募金活動のテーマ：
～すべての子どもに5歳の誕生日を～



募金総額 ¥2,132,018

ボランティア協力者 242名

佐賀県ユニセフ協会では、40年目の「ハンドインハンド募金活動」を地域のボランティアを募り、12月に県内各地で行いました。

そこでは、個人・学校・団体・企業等々、多くの皆様方からたくさんのご支援をいただきました。

皆様からお預かりした募金総額は、**2,132,018円**にもなりました。ここに感謝を込めてご報告申し上げます。誠にありがとうございました。

街頭募金活動は、1日、9日、16日、23日、25日の5日間、10会場で実施しました。上峰イオンショッピングセンターは今年閉店ということで最後となりました。これまでのご協力に心から感謝を申し上げます。

また、今年新たに鳥栖地区で、フレスポ鳥栖店様の店頭での募金活動をさせていただきました。鳥栖地区の皆様、今後ともよろしくお願ひいたします。

小さな子どもからご高齢の方まで幅広い年代のボランティアさんは、総勢242名にもものぼりました。ボランティアの皆様は「ユニセフ募金にご協力をお願いします!」「2円で一年分のビタミンA一人分になります!」「ありがとうございます!」と元気な声で協力を呼びかけました。ボランティアの皆様の熱い思いはお客様の心に届き、たくさんのご協力をいただきました。

ご多用のなか駆けつけてくださったボランティアの皆様、募金箱に温かいお気持ちをお寄せいただいた多くの皆様、快く会場をご提供くださった企業の皆様、まことにありがとうございました。



© UNICEF/UN0160503/Soares

今世界では、年間540万人の子どもたちが5歳の誕生日を迎える前に亡くなっています。5,6秒に1人、幼い命が失われています。ユニセフは子どもたちの命と健康、未来を守るために支援をしています。今回集まった募金で、自然災害や干ばつ、飢饉や紛争などで栄養失調や病気になっている子どもたちに栄養治療食や経口補水塩、予防接種ワクチンなど緊急に必要な支援物資を送ります。(下記は、支援の例です。)

プランピーナッツ (栄養治療食)



栄養失調から子どもを守ります。1袋45円です。

経口補水塩

下痢による脱水症からいのちをまもります。1袋 8円です。



予防接種ワクチン



予防接種ワクチンがあれば幼い命を病気から守ることができます。

○ボランティア協力をしてくださった皆様

佐賀商業高等学校様 北陵高等学校様 清和高等学校様 佐賀学園高等学校様 佐賀東高等学校様 高志館高等学校様 致遠館高等学校様 佐賀西高等学校様 佐賀北高等学校様 鳥栖商業高等学校様 三養基高等学校様 弘学館高等学校様 佐賀女子高等学校様 矢ヶ部小学校様 柳川市教育委員会様 ボーイスカウト佐賀第5団様 上峰小学校様 ボーイスカウト鹿島第1団様 材木町子ども会様 浄土真宗本願寺派佐賀教区少年連盟様 (※個人の方のお名前は控えさせていただきます。)

○会場をご提供くださった企業様

イオンスーパーセンター佐賀店様 スーパーセンタービバホーム佐賀店様 イオンモール佐賀大和店様 ホームワイド佐賀大和店様 ゆめタウン佐賀店様 フレスポ鳥栖店様 佐賀玉屋様 イオン上峰ショッピングセンター様 コープさが新栄店様 ゆめmart佐賀店様 佐賀玉屋様 Aコープララベル鹿島店様

各会場風景



12/1 イオンスーパーセンター
スーパーセンタービバホーム



12/9 ゆめタウン佐賀店



12/9 イオンモール佐賀大和店
ホームワイド佐賀大和店



12/9 フレスポ鳥栖店



12/16 佐賀玉屋



12/16 ゆめマートさが店



12/16 コープ 新栄店



12/16 イオン上峰
ショッピングセンター



12/23 鹿島 Aコープ ララベル



12/25 浄土真宗本願寺派少年連盟様

unwish の仲間たち!

北陵高等学校 生徒会 のみなさん

—佐賀市—



北陵高等学校でボランティア活動を推進している生徒会の役員の方々の皆さん

北陵高等学校は、今年、創立56年目を迎える工業と福祉等の専門高校です。北陵高等学校の教育のモットーは、「私達も、地域の一員」～地域に愛される学校を目指して～です。この目標は生徒の中にも浸透し、生徒会を中心に全校生徒が自主的に参加する様々なボランティア活動を行っています。

その地道な成果が評価され、平成22年度には、全国高校生の部で、『第5回SDYボランティア奨励章 優秀賞』をはじめ、今日まで様々な賞を受賞されています。

※SYD=財団法人修養団



第5回SDYボランティア奨励章 優秀賞

◆ 生徒会活動の柱であるボランティア活動について、地域交流部長の田川さんと3年生の生徒会役員に伺いました。

「本校生徒会は、『楽しい学校生活を送ろう』をメインテーマに、特にボランティア活動に積極的に取り組んでいます。2年前からは、役員を中心に実施してきた活動を広く全校生徒にも参加を呼びかけ、多くの賛同を得て学校全体にボランティア活動の機運が高まっています。」と話されました。

また、これまで活動に参加してきたお二人の感想もお聞きしました。「僕たちはこの地域で学校生活をしています。地域の方々と交流しながら楽しく活動したり、生徒の皆さんにボランティアの楽しさを理解してもらう中で、地域の方々と仲良くなったり、役に立つ喜びを感じられたりすることがうれしいです。」

◆年間50件、延べ1000人の生徒さんたちがボランティア活動に参加されているそうです。現在の主な活動は、地域の独居老人宅の除草や清掃、通学路の落ち葉清掃、福祉団体のイベントの手伝い、地域のイベントでの交流、さくらマラソン給水ボランティア、ユニセフの募金活動など様々です。

ユニセフへの協力



【街頭募金活動】



【チャリティーバザー】



【車いすの修理ボランティア】



【子ども達との交流】



◆最後に、生徒会・ボランティア担当の小川みどり先生に、この活動の意義や今後の展望について伺いました。「生徒には積極的にボランティアに参加して地域の方と仲良く楽しんでほしいと思っています。ボランティア活動後の笑顔や『助かった。』『頑張っているね。』等の声かけから、生徒は、社会や誰かのためになっているという喜びを実感し、仲間との絆も深めることができます。生徒にはいつも、『とりあえずおいで。』と声をかけています。これからも、人の役に立っていることを実感できる体験をしてほしいと思います。そして、関わる多くの人から育ててもらえるんです。」と話されました。

(語り：北陵高等学校 3年田川さん、秋山さん、小川みどり先生 取材：江島きよ子)